

\*2022～2024年版(公財)日本体操協会競技規則・採点規則・シニアルールを適用する。

総則

点数配分と計算

難度 (D)

加点法：2つの審判団の合計

芸術 (A) 最高10.00点

実施 (E) 最高10.00点

・芸術的欠点

・技術的欠点

最終得点:

D得点+最高10.00点のA得点+最高10.00点のE得点(減点がある場合、最終得点から差し引かれる)

個人演技【得点の配点】

難度 (D) (加点)	芸術 (A) 10点満点(減点)	実施 (E) 10点満点(減点)
<p>・<b>身体難度 (DB)</b> 最低3個 最も高いものから9個 各身体グループから最低1個の難度 (ジャンプへ バランス T ローテーション ) 基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って スローターンバランス ルルベで最高1個、踵をついて最高1個</p> <p>・<b>全身の波動 (W)</b> 最低2個 DB:基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って DBでない:基礎または基礎でない手具操作は要求されない (手具は動いていること)</p> <p>・<b>回転と投げを伴ったダイナミック要素 (R)</b> 最高5個(実施順に)</p> <p>・<b>手具難度 (DA)</b> 最低1個 最高20個(実施順に) 特有な基礎手具要素 最低各2個ずつ 基礎手具要素 最低各1個ずつ</p>	<p>芸術的欠点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術的構造とパフォーマンス:構成の目的</li> <li>・音楽規範</li> <li>・動きの特徴</li> <li>・ダンスステップコンビネーション 最低2個</li> <li>・身体表現 身体と顔の表現</li> <li>・ダイナミックな変化 最低2つ</li> <li>・身体と手具の効果</li> <li>・特有な音楽と特有な動きの調和</li> <li>・多様性:投げと受け</li> <li>・空間の使用</li> <li>・統一性</li> <li>・つながり</li> <li>・リズム</li> <li>・音楽終了時の動き</li> </ul>	<p>技術的欠点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の動き</li> <li>・手具の技術</li> </ul>

団体演技【得点の配点】

難度 (D) (加点)	芸術 (A) 10点満点(減点)	実施 (E) 10点満点(減点)
<p>・交換を伴う難度と伴わない難度 最高10個(実施順に) 交換を伴わない身体難度 (DB) 最低4個 交換を伴う交換難度 (DE) 最低4個 各身体グループから最低1個の難度 (ジャンプへ バランス T ローテーション ) 基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って</p> <p>・<b>全身の波動 (W)</b> 最低2個 (5名すべての選手で同様に行う) DB:基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って DBでない:基礎または基礎でない手具操作は要求されない (手具は動いていること)</p> <p>・<b>回転と投げを伴ったダイナミック要素 (R)</b> 最高1個</p> <p>・<b>手具難度 (DA)</b> 連係を伴う難度 (DC) 最低9個 最高18個(実施順) 必須:最低3個のCC・最低3個のCR・最低3個の単独の複数投げ/複数受け</p> <p>・<b>特有の基礎手具要素</b> 各最低2個</p>	<p>芸術的欠点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術的構造とパフォーマンス:構成の目的</li> <li>・音楽規範</li> <li>・動きの特徴</li> <li>・ダンスステップコンビネーション 最低2個</li> <li>・身体表現 身体と顔の表現</li> <li>・ダイナミックな変化 最低3つ</li> <li>・身体と手具の効果</li> <li>・特有な音楽と特有な動き 最低2つ</li> <li>・共同作業</li> <li>①同時 ②カノン ③コントラスト ④コーラル</li> <li>・フォーメーション(2難度を超えて同じ場所)</li> <li>・統一性</li> <li>・つながり</li> <li>・リズム</li> <li>・音楽終了時の動き</li> <li>・身体での造形/持ち上げられた位置</li> <li>・手具と選手の接触</li> </ul>	<p>技術的欠点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の動き</li> <li>・手具の技術</li> </ul>

高体連ルールについて(2022年2月決定)

1. 許容について

団体のリボンの長さは5m50cm以上とする。

2. 服装について

①レオタードについては日本体操協会採点規則を適用する。

細いストラップの付いたレオタードも許容される。ただし、教育活動であることを念頭に置き、華美にならないよう気をつける。

また、選手を守るという観点から、脚の付け根のレオタードのカットは、股関節の折り目を超えてはならない。(2年間は移行期間とする)

②練習着については、素肌を出さないことを条件に、セパレートタイプの着用を認める。

(キャミソールタイプの細い肩ひもは認めない。)

③化粧・髪飾り(ティアラ)は禁止とする。ピン等の光る素材も使用禁止(リボンを含む)。召集時に確認する。

④マークはレオタードの柄と区別がつくように、召集時に確認する。

⑤マークは学校名又は校章とする。(校名は略称でも可能。)但し、頭文字のみは認めない。

(校章が頭文字のみの場合は確認できるものを監督会議までに提出する。)

⑥マークを付ける位置については、ウエストラインより上とする。

マークの大きさ:次のいずれかの形状を包含する(上回る)大きさであることとする。

凹凸のある形状のマークでは、凸出部を直線で結んだ形状をその大きさとする。

(1) 4.5cm×4.5cmの正方形

(2) 4.0cm×5.0cmの長方形

(3) 一辺が5.0cmの三角形

(4) 直径が4.5cmの円

(5) 一辺が4.5cmで辺の交わる角度が60°と120°の菱形

⑦服装減点…0.3

3. 手具について

①FIG規則の手具規格に従い使用すること。

②競技前の手具点検は行わない(採点規則適用)。但し、審判長が必要であると判断した場合は、競技後に点検する事がある。(減点なし)

③リボンについては、競技前に手具点検を行う。(長さの計測)

《同点順位の決定方法について》

団体競技

1. Eスコアの高いチームを上位とする。
2. (上記1)において同点の場合、最も低い技術減点(ET)を有するチームを上位とする。
3. (上記2)においても同点の場合、Dスコアの高いチームを上位とする。
4. (上記3)においても同点の場合、主催団体に一任する。(当該監督による抽選など)

個人競技

1. 合計したEスコアが高い選手を上位とする。
  2. (上記1)においても同点の場合、2種目において技術減点(ET)が低い選手を上位とする。
  3. (上記2)においても同点の場合、2種目のDスコアの合計が高い選手を上位とする。
  4. (上記3)においても同点の場合、主催団体に一任する。(当該監督による抽選など)
- \* 全国選抜個人競技については、4種目の全ての点数が同点であった場合、上記に準ずる。

国体における同点順位決定方法

1. 個人4種目のEスコアの平均と団体のEスコアの合計が高いチームを上位とする。
2. (上記1)においても同点の場合、個人4種目の技術減点(ET)スコアの平均と団体の技術減点(ET)スコアの合計点が高いチームを上位とする。
3. (上記2)においても同点の場合、個人4種目のDスコアの平均と団体Dスコアの合計点が高いチームを上位とする。
4. (上記3)においても同点の場合、主催団体に一任する。(当該監督による抽選など)

審判編成基準

\* 開催県審判は最大2名とする。

審判長/副審判長(審判本部) ※レスポンスブルジャッジは審判長が兼ねる(地方大会は各都道府県、ブロックの裁量とする)

個人 競技	種目A	DB1	DB2	DA1	DA2	A1	A2	A3	A4	E1	E2	E3	E4
	種目B	DB1	DB2	DA1	DA2								
団体 競技	団体	DB1	DB2	DA1	DA2	A1	A2	A3	A4	E1	E2	E3	E4
線審(2名)						開催県							
計時(2名)						開催県							
補審(1名)						開催県							
セクレタリー(1名)						開催県							